



セメントサイロ跡地協議会開催

20事業者を超える応募 決定は今年夏頃か

6月2日に3回目のセメントサイロ跡地協議会が開催されました。今年3月に締め切られた応募状況についての報告がされ、20事業者を超える応募総数があったとの事で、この地域での関心の高さが示された事は地元に住む者として安心したところです。この中から8社程度に絞り込み、さらに財務面等も考慮し最終的には3社位にした後に決定していくのではないのでしょうか。この協議会は南千住地域だけでなく、荒川区の経済活動に大きな影響を及ぼす跡地開発を協議するもので内外からの関心も高くなっています。



荒川区議会「通年議会」始まる 23区初

6月25日代表質問で区長に質す

23区初となる「通年議会」が来年4月迄の354日に渡り始まりました。本会議での開始時間も今回から初めて午前10時開始となり、初日は私が自民党の代表質問を行い、1区としての成長戦略について2 不断の行政改革について3 花を活かした観光振興について4 地域力の活用について等について区長や理事者に50分間に渡り質問しました。



私は以前から、町会や地域の見守りで、防犯・防火・介護予防・家庭での引きこもりの防止等安心して、安全な町が保たれると確信し、質問しています。

ジェネリックに変えて 4000 万国保料削減 国保会計年間 150 億円超支出

荒川区ではこの度、25 年 5 月までの医療費の分析結果を公表しました。対象者は 67,000 人。一人当たりの年間医療費は 4 万円弱。高額医療費の一位は一人 1400 万。重症糖尿病患者等の皆さんが行っている透析などは年間 600 万円位の支出になっています。現在、荒川区の糖尿病患者は国民健康保険加入者で 1 万 1 千人位います。これに厚生保険加入者を加えると全体の糖尿病患者はかなりの人数になるのではないのでしょうか。又、薬局で**ジェネリック【後発薬】**にしてもらうだけで、年間、4 千万円位の削減になったとのことです。ですから、区の保険財政にも寄与していると思います。

南千住周辺 7 月の見どころ

近すぎていかなかったが一度は行ってみますか

入谷朝顔まつり

7 月 6 ・ 7 ・ 8 日

日比谷線入谷下車 1 分

浅草寺ほうずき市

7 月 9 ・ 10 日

浅草寺境内



汐入公園花壇の百合も見頃です

富岡製糸場と東北本線建設

明治政府 生糸の輸出確保を優先

6月22日に「富岡製糸場」が世界遺産に登録されました。近代国家を目指す日本が欧米国家に追いつくためには、資源のない日本にとって絹の輸出が最重要課題となりました。明治5年に富岡製糸場が完成し、絹製品を作っても横浜の港に届けるには100キロの道を人力【大八車】のように人が運ばなくてはなりませんでした。前橋から品川までの鉄道建設は明治国家の至上命題となります。荒川区内で最初に鉄道が走ったのは今から約130年前の明治16年です。元老岩倉具視の後押しで設立された民営の「日本鉄道会社」が明治14年に上野～青森間の東北本線を計画し、合わせてその支線として大宮～前橋間の工事を先行させ、15年8月から工事を進めました。



世界遺産・富岡製糸場

上野～熊谷間 60キロ突貫工事 1年で完成

翌年の16年7月には上野～熊谷間を開通。17年8月に前橋迄開業します。上野～熊谷間・60キロをわずか1年で鉄道を完成させるのですから、当時は地主等への土地の買収については相当強引に行ったようです。日暮里村の地主を例にとると土地の買収が済まないうちに、鉄道工事が始まったようで、価格は1坪最高額の90銭



明治期の上野駅

～最低24銭で行われたようです。当時の工事承諾書を見ても、ほとんど地主の意向を無視した強行主義をとったことが分かります。この日本鉄道が明治18年に開通させた前橋駅 - 赤羽駅 - 品川駅のルート(のちの高崎線・赤羽線・山手線)は、官営鉄道(品川駅 - 横浜駅)の品川駅で合流することが出来、そのことの意味は当時の主要輸出品の80%を占めた生糸や絹織物の産地の群馬と輸出港の横浜を結ぶ路線となり、鉄道による産業発展への貢献の第一号となります。